スプリング・エフェメラル

春先に花をつけ、夏まで葉をつけると、あとは地下で過ごす一連の草花の総称。
春植物（はるしょくぶつ）とも言われます。
直訳すると「春のはかないもの」「春の短い命」というような意味で、「春の妖精」とも呼ばれます。

「生育環境」
スプリング・エフェメラルは、温帯の落葉広葉樹林に適応した植物です。
冬に落葉した森林では、早春にはまだ葉が出ていないので、林床は日差しが十分に入ります。この明るい場所で花を咲かせるのがこの種の植物です。やがて樹木に新芽が出て、若葉が広がり始めると、次第に林内は暗くなりますが、それでも夏まではやや明るい状態です。
この種の植物は、この光が十分にある間に、それを受けて光合成を行い、その栄養を地下に蓄える訳です。したがって、これらの植物は森林内に生育しているものの、性質としては日向の植物ということになります。　　（ウィキペディア参照）

クリーンパーク北但の里山に見られるスプリング・エフェメラルを紹介します。

※　施設工事着工前の植物相の現地調査では、126科556種の植物が確認されています。
施設稼働（平成28年）後の引き続きの植物調査で、新たに発見されたという意味で、当地におけるスプリング・エフェメラルの新種としているものは、掲載中のうち「ヤマエンゴサク」、「ヒメウズ」、「キクザキイチゲ」、「イチリンソウ」、「ヒメニラ」、「ニリンソウ」です。

＊　一般に、里山として手入れがなされていた当時は、大変豊かな植物相（自然）が実現していました。しかし、放置され、年月が経つにつれ、植物相は、荒れていく土地に耐える種だけがはびこるようになります。しかし、改めて人の手が入り、適切に管理されていくと、それまでひっそりと地中に眠っていた種が芽吹き、また豊かな植物相（自然）の復活が期待できるのです。

ヤマエンゴサク（山延胡索）

塊茎があります。葉には柄があり、2～3回3出複葉です。小葉は卵円形～披針形で3～4裂します。茎頂に青紫色筒形で長さ1．5～2．5cmの花を総状につけます。

【生育地】 山野の湿り気のある林内

【分　類】 ケシ科／キケマン属／多年草

【花　期】 4～5月

【花　色】 青紫色から赤紫色

【高　さ】 10～20cm

キクザキイチゲ（菊咲一華）

キクに似た花を一輪つけることからこの名がつきました。茎葉は3個輪生し、小葉は羽状に深く裂けます。山梨県など複数の都道府県で、レッドリストの絶滅危惧Ⅰ類や絶滅危惧Ⅱ類などの指定を受けています。

【生育地】 落葉広葉樹林の林床

【分　類】 キンポウゲ科／イチリンソウ属／多年草

【花　期】 3～5月

【花　色】 白色～紫色

【高　さ】 10～30cm

ヒメウズ（姫烏頭）

ウズ（烏頭）はトリカブトのことであり、葉が似ていることでこの名がつきました。花は4～5ミリと小さく、下向きに咲きます。

【生育地】 山麓の草地や道ばた、石垣のすきま、谷筋、林道脇

【分　類】 キンポウゲ科／オダマキ属（一説では）／多年草

【花　期】 3～5月

【花　色】 やや紅色

【高　さ】 10～30cm

イチリンソウ（一輪草）

花茎の先に花を一輪咲かせることからこの名がつきました。根茎は横に這い、多肉質でところどころ紡錘状になります。茎葉は3個輪生し、3出複葉で、長い柄があります。

【生育地】 山麓の草地や林内

【分　類】 キンポウゲ科／イチリンソウ属／多年草

【花　期】 4～5月

【花　色】 白色（裏面は紅色を帯びる場合がある）

【高　さ】 20～25cm

ショウジョウバカマ（猩々袴）

葉は広い線形でなめらか、根本から多数出てロゼット状に平に広がります。名前は、花が赤いのを猩々（中国の伝説上の動物）になぞらえ、根生葉の重なりが袴に似ていることから名付けられたとされます。

【生育地】 垂直分布が広く、田んぼの畦道から高山帯の高層湿原

【分　類】 ユリ科／ショウジョウバカマ属／多年草

【花　期】 4～5月

【花　色】 生育場所により淡紅色、紫色、白色と変化に富む

【高　さ】 10～30cm

ヒメニラ（姫韮）

わずかにニラに似た臭気があります。地下の鱗茎は球形で、長さ6～10mmになります。葉は、長さ10～20cm、幅3～8mmになり、線形をしています。分布域はやや狭く、稀に見ることができる植物です。国（環境省）では絶滅危惧種としての選定はしていないものの、関東地方以西の17都県では、絶滅種あるいは広義の絶滅危惧種に指定しています。当地では、花をつけた株をまだ見つけてはいません。

【生育地】 湿り気の多いやや傾斜した崖地、田畑の土手

【分　類】 ヒガンバナ科／ネギ属／多年草

【花　期】 3～5月

【花　色】 白色またはわずかに淡紅色

【高　さ】 10～20cm

ムラサキケマン（紫華鬘）

花色が紫色で、花の形が仏殿に吊るす仏具の華鬘（けまん）に似ているところから名付けられました。全草にプロトピンを含む有毒植物で、誤食すれば嘔吐、呼吸麻痺、心臓麻痺などを引き起こします。

【生育地】 木陰や林縁のやや湿ったところ

【分　類】 ケシ科／キケマン属／越年草

【花　期】 4～6月

【花　色】 紫色

【高　さ】 30～50cm

ニリンソウ（二輪草）

多くは1本の茎から花が2輪ずつ寄り添って咲く姿から名付けられました。若葉は山菜として食用されますが、猛毒のトリカブトと同じような所に生え、葉もよく似ていることから、採取には細心の注意が必要です。

【生育地】 湿潤な山裾の雑木林の中や林縁

【分　類】　キンポウゲ科／イチリンソウ属／多年草

【花　期】　3～5月

【花　色】　白色

【高　さ】　約20cm